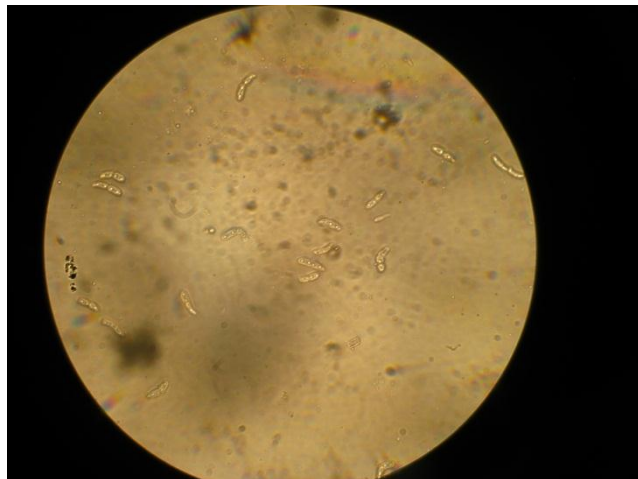


バラ黒星病 (Black spot)

Displocarpon rosae



被害葉



黒星病の分生子

発生生態

露地栽培のバラに最も多く発生し、被害も大きい病気です。6月頃から葉に小さな病斑がみられ、徐々に斑点は大きくなり、5～10mm位の円形病斑となります。病斑の周囲は黄変・落葉します。病原菌はカビの1種で風雨で飛散し感染が拡大します。また、落葉した葉で越冬し、翌年の伝染源となります。

防除対策

20℃～25℃の湿潤な条件が発生しやすくなります。防除は密植を避けるとともに、冬期の剪定では病気に罹った枝は除去するようにしましょう。また、発病が始まれば、防除の効果は上がらないので、病葉を確認したら、直ぐに摘葉するとともに、初期の薬剤散布を心がけましょう。葉への灌水は病気を助長するので避けてください。